令和８年度JAいわみざわ地域農業再生協議会水田収益力強化ビジョン

１　地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

（１）地域の作物作付けの現状

当地域の耕地面積は１８，０００ｈａにおよび、うち交付対象水田面積は１４，８９６ｈａと耕地面積の約８３％を占めている。地域のほぼ中央を縦断する北海道縦貫自動車道以北は坦々とした平地が広がり、豊富な水資源を活かしながら稲作・畑作・露地野菜を中心に大規模土地利用型農業を展開している。また、自動車道以南東は丘陵地から山林地帯へと広がり、水稲を主力に施設園芸や果樹を組み入れた複合経営を展開している。令和７年度の転作面積１０，７０７ｈａ（転作率７２％）のうち麦・大豆、地域重点作物（子実用とうもろこし・てん菜・そば・なたね）及び水田活用米穀で約８６％を占めている一方、野菜・花卉は約８％にとどまり、その他は牧草・小豆・地力増進作物等となっている。

（２）地域が抱える課題

農地の担い手への集積率は９０％を超え、新たに策定された「地域計画」において地域の合意形成により示された担い手（農業を担う者）は明確になっている。一方、高齢化・後継者不足等により、農家戸数は年々減少の一途を辿っており、特に２０ｈａ未満の中小規模農家の戸数減少が著しい。経営体の大規模化により、労働力不足が顕著になることや野菜の作付け中止が懸念され、水田機能維持と併せた輪作体系や作期競合回避技術の確立、野菜産地としての生産体制づくりが喫緊の課題となっている。また、気候変動に伴う災害への備えや排水不良による湿害対策等生産基盤となる農地の地域事情に合わせた整備が求められている。

２　高収益作物の導入や転換作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

当地域では、収益性の高い水田農業経営への転換を図るため、産地交付金を活用しながら、主食用米と比較して面積当たりの所得が高い野菜等の高収益作物や、時間当たりの所得が高い子実用とうもろこしの作付け拡大を図っているが、水田（交付対象）作に占める同作物の作付率は約７％と低い状況となっている。

今後は、水田をフル活用しながら、多様なニーズに対応した競争力の高い農産物の計画的かつ安定的な生産・供給が可能な産地づくりを一層進めるとともに、「水田農業高収益化推進計画の策定について」（令和２年４月１日付け元生産第 2167 号・元農振第 3757 号・元政統第 2085 号農林水産省生産局長・農村振興局長・政策統括官連名通知）に基づく産地推進計画の策定と合せて関係機関・団体等の連携による推進体制を構築し、規模拡大等に対応する集荷施設の再編・整備や基盤整備による排水対策を進めつつ、高収益作物や子実用とうもろこしの導入などに向けて一層の推進を図り、収益性の高い水田農業経営への転換を目指す。

高収益作物の導入にあたっては、需要が増加している野菜の安定生産や高品質化、消費者ニーズに対応した多様な品目の作付けなどによる産地ブランド力の向上、地域に適応した品種の選定・普及及び栽培技術の改善、スマート農業等の省力・低コスト生産技術の導入、出荷期間・販売地域の拡大など様々な取組みを通じて、特色ある産地づくりや収益力の向上による経営の安定化を進める。
子実用とうもろこしについては、販売先との連携を基本に需要に応じた作付けを進めるとともに、輪作作物としての活用を通じて生産性の向上を図る。

３　畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

水田転作の交付金に依存した経営が多い中で、転作作物については、高品質化、収量向上、低コスト化が求められており、そのためには、大区画化や用排水分離などの圃場条件の整備を進め生産力を高めていくことが重要となっている。
当地域では、田畑輪換方式の特性を活かし、空知型輪作による作付けのローテーションを促し、水田利用時の湛水による土壌病害虫発生の軽減や雑草発生の抑制、また、土壌物理性改善効果によって水稲と転作作物の双方の生産力を高めるための取組みを推進している。
一方で、畑地化の取組みを進めるに当たっては、新たに策定された「地域計画」により描かれた目標地図や担い手の農業経営改善計画などに基づく効率的な土地利用に配慮するとともに、地域の実情に応じた作物の本作化や計画的な農地の集積・集約化が図られるかなど、関係機関・団体と連携のもと、地域内・関係者間の合意形成を的確に行いつつ、畑地化への支援内容や基盤整備等に関する情報提供・助言を行う。

４　作物ごとの取組方針等

１４，８９６ｈａの交付対象水田を有する当地域が将来にわたって米主産地として生き残るためには、農地中間管理事業等を活用した農地集積により大規模化を進め、水張り面積を確保するとともに、用途別生産・販売の強化に取り組み、多様なニーズに対応した売れる米作りをより強力に推進する必要がある。一方、産地交付金を有効に活用して国内自給率の向上に資する麦・大豆の収量・品質の向上を図るとともに、基幹作物でＪＡブランドでもある玉葱、更にはＪＡ振興作物となる白菜・南瓜・キャベツ・長葱・胡瓜・メロン・いちご・花卉の野菜・花卉生産の維持・拡大を図る。

（１）主食用米

米の消費減少が進み、ますます産地間競争が激化する中で水張り面積を確保するためには、消費者・実需者に買ってもらえる米作りと販売力強化が重要であり、多様な消費者ニーズに対応するため、ニーズに合った米を均一な一定のロットで確保する。また、一定の栽培基準を設けたこだわり米についても作付けを拡大し、クリーン農業のイメージ強化とともに差別化を推進する。

（２）備蓄米

水張り面積確保の観点から、需要に応じた柔軟な対応に努める。

（３）非主食用米

ア 飼料用米・イ 米粉用米・エ WCS用稲・オ 加工用米

主食用米の需要が減少する中、需要の拡大が見込まれるWCS用稲・加工用米等の生産を後押しする。飼料用米は、専用品種を主体に直播などコスト削減を図りつつ、国からの産地交付金を最大限活用し一定程度の面積を確保する。

ウ 新市場開拓用米

主食用米の国内需要が減少する中、内外のコメの新市場開拓に取組み、新市場開拓用米の作付け拡大を目指しつつ、水張り確保の観点からも一定程度の面積を確保する。

（４）麦、大豆、飼料作物（子実用とうもろこしを含む）

農地集積が進んでいる現状においても主要な転作作物としての位置付けは変わらず、今後もこれら作物の収量・品質の一層の向上を図る。麦・大豆については、連作障害や春小麦の生産性及び大豆の雑草対策が課題となるため、水稲を組み入れた空知型輪作体系の確立や畑作物輪作の推進と併せて、技術が確立されつつある春小麦の初冬播きや大豆の狭畦栽培の拡大により、生産性の安定化に努める。また、子実用とうもろこしについては、その高い労働生産性と深根性及び豊富な収穫残渣の発生による有機物の補給が可能となるなど土壌改良効果も期待できるため、食料自給率の向上に資する飼料生産とともに、有用な輪作作物として作付面積の拡大を図る。

（５）そば、なたね

麦・大豆の作付けが不向きな北海道縦貫自動車道以南東の地域では、そばが転作作物の重要な位置付けとなっている。暗渠排水等土壌改良を進めながら、作付面積を維持する。また、なたねについては、輪作体系の一環として作付面積を確保する。

（６）地力増進作物

空知管内は酪農・肉牛農家の割合が低く、堆肥の入手が困難である上に作業機械を所有している割合も低い。そのため、土づくりに必須な有機物の導入を地力増進作物(イネ科、アブラナ科、キク科、マメ科の地力増進作物として、えん麦、えん麦野生種、ソルガム、緑肥デントコーン、シロカラシ、チャガラシ、キカラシ、ひまわり、緑肥用大豆、ヘアリーベッチ、アカクローバー、クリムソンクローバ）によって行い、土壌物理性の改善により、高収益作物等の収量・品質の高位平準化を目指す。

（７）高収益作物（園芸作物等）

米とともにＪＡの基幹作物である玉葱は、収量・品質の向上を目指し、輪作による地力や透排水性の改善によりブランド力の再構築を図る。また、ＪＡの振興作物である白菜・南瓜・キャベツ・長葱・胡瓜・メロン・いちご・花卉は、地域性・経営規模・労働力調整等に配慮しながら、各品目の利点を活かした作付け推進で産地化に努める。その他の野菜、トウキ等においても生産者所得の向上に向けて作付け推進を図る。

５ 作物ごとの作付予定面積等

作物等	前年度の作付面積		当年度の作付予定面積等		令和8年度の作付目標面積等	
	(ha)	うち二毛作	(ha)	うち二毛作	(ha)	うち二毛作
主食用米	4,248.0		4,497.0		4,330.0	
備蓄米	0.0		17.8		0.0	
飼料用米	379.7		76.2		400.0	
米粉用米	0.0		0.0		0.0	
新市場開拓米	347.4		531.0		360.0	
ＷＣＳ用稲	347.6		280.0		350.0	
加工用米	728.9		928.0		780.0	
小　麦	4,710.9		4,470.0		4,440.0	
大　豆	1,900.1		1,950.0		1,760.0	
飼料作物（牧草）	127.1		120.0		155.0	
子実用とうもろこし	302.8		305.0		260.0	
そば	184.9	51.0	185.0	55.0	165.0	45.0
なたね	123.0		200.0		110.0	
地力増進作物	518.2	112.2	530.0	120.0	450.0	150.0
高収益作物	(891.1)	(28.3)	(919.0)	(32.0)	(846.0)	(35.0)
白　菜	57.7	27.5	63.0	30.0	78.0	33.0
南　瓜	96.0		100.0		105.0	
キャベツ	14.7	0.8	15.0	2.0	22.0	2.0
長　葱	13.2		14.0		17.5	
胡　瓜	2.4		4.0		4.0	
いちご	1.0		1.0		1.7	
メロン	3.7		4.0		4.8	
花　卉	26.4		38.0		35.0	
たまねぎ	556.0		560.0		460.0	
その他の高収益作物	120.0		120.0		118.0	
その他	337.8		360.1		326.1	
てん菜	152.7		170.0		180.0	
小　豆	34.3		50.0		45.0	
その他	150.8		140.1		101.1	
畑地化	32.1		2.0		5.0	

６ 課題解決に向けた取組及び目標

整理番号	対象作物	使途名	目標	前年度（実績）		目標値	
1	秋小麦	空知型輪作体系確立加算（前作：水稲）	作付面積	（令和 7 年度）	7,066.5 ha	（令和 8 年度）	6,640.0 ha
	春小麦		単収　秋小麦	（令和 7 年度）	477 kg/10a	（令和 8 年度）	550 kg/10a
	大　豆		単収　春小麦	（令和 7 年度）	334 kg/10a	（令和 8 年度）	400 kg/10a
2			単収　大　豆	（令和 7 年度）	325 kg/10a	（令和 8 年度）	310 kg/10a
	てん菜		単収　てん菜	（令和 7 年度）	7,240 kg/10a	（令和 8 年度）	7,200 kg/10a
3							
4	子実用とうもろこし		単収　子実用とうもろこし	（令和 7 年度）	947 kg/10a	（令和 8 年度）	900 kg/10a
5	2 春小麦	春小麦の初冬播き栽培加算	作付面積	（令和 7 年度）	46.7 ha	（令和 8 年度）	180.0 ha
6			単収（春小麦全体）	（令和 7 年度）	396 kg/10a	（令和 8 年度）	400 kg/10a
#	3 大　豆	大豆狭畦栽培推進加算	作付面積	（令和 7 年度）	487.2 ha	（令和 8 年度）	480.0 ha
#			単収（大豆全体）	（令和 7 年度）	325 kg/10a	（令和 8 年度）	310 kg/10a
#	4 麦・大豆・なたね・てん菜・子実用とうもろこし・小豆・玉葱・別紙2-2に定める作物	畑作物輪作推進加算（前作・当年作：対象作物による輪作）	取組面積	（令和 7 年度）	2,728.5 ha	（令和 8 年度）	2,820.0 ha
			単収　代表的な作物 秋小麦	（令和 7 年度）	477 kg/10a	（令和 8 年度）	550 kg/10a
#	5 玉　葱	重点基幹作物助成（玉葱）	作付面積	（令和 7 年度）	556.0 ha	（令和 8 年度）	460.0 ha
#	6 二毛作のみ輪作体系確立作物（玉葱後作緑肥）	地力増進作物推進助成（玉葱後作緑肥：二毛作）	作付面積	（令和 7 年度）	112.2 ha	（令和 8 年度）	150.0 ha
#	7 子実用とうもろこし	地域重点作物推進助成（子実用とうもろこし）	作付面積	（令和 7 年度）	302.8 ha	（令和 8 年度）	260.0 ha
#			単収	（令和 7 年度）	947 kg/10a	（令和 8 年度）	900 kg/10a
8	てん菜	地域重点作物推進助成（てん菜）	作付面積	（令和 7 年度）	152.7 ha	（令和 8 年度）	180.0 ha
			単収	（令和 7 年度）	7,240 kg/10a	（令和 8 年度）	7,200 kg/10a
9	そ　ば	地域重点作物推進助成（そば・なたね）	作付面積	（令和 7 年度）	307.9 ha	（令和 8 年度）	275.0 ha
			単収　そ　ば	（令和 7 年度）	78.0 kg/10a	（令和 8 年度）	73.0 kg/10a
	なたね		単収　なたね	（令和 7 年度）	323.0 kg/10a	（令和 8 年度）	390.0 kg/10a
10	小　豆	輪作体系確立作物推進助成（小豆）	作付面積	（令和 7 年度）	34.3 ha	（令和 8 年度）	45.0 ha
			単収	（令和 7 年度）	171 kg/10a	（令和 8 年度）	240 kg/10a
11	秋小麦	単収実績加算（秋小麦）ランク1	作付面積	（令和 7 年度）	3,695.7 ha	（令和 8 年度）	3,270.0 ha
			単収（ランク1）	（令和 7 年度）	581 kg/10a	（令和 8 年度）	600 kg/10a
			生産者数割合	（令和 7 年度）	40.4 %	（令和 8 年度）	80.0 %
12	秋小麦	単収実績加算（秋小麦）ランク2	作付面積	（令和 7 年度）	3,695.7 ha	（令和 8 年度）	3,270.0 ha
			単収（ランク2）	（令和 7 年度）	450 kg/10a	（令和 8 年度）	430 kg/10a
			生産者数割合	（令和 7 年度）	35.8 %	（令和 8 年度）	10.0 %
13	春小麦	単収実績加算（春小麦）ランク1	作付面積	（令和 7 年度）	1,015.1 ha	（令和 8 年度）	1,170.0 ha
			単収（ランク1）	（令和 7 年度）	397 kg/10a	（令和 8 年度）	450 kg/10a
			生産者数割合	（令和 7 年度）	65.1 %	（令和 8 年度）	85.0 %
14	春小麦	単収実績加算（春小麦）ランク2	作付面積	（令和 7 年度）	1,015.1 ha	（令和 8 年度）	1,170.0 ha
			単収（ランク2）	（令和 7 年度）	282 kg/10a	（令和 8 年度）	300 kg/10a
			生産者数割合	（令和 7 年度）	14.4 %	（令和 8 年度）	8.0 %
15	大　豆	単収実績加算（大　豆）ランク1	作付面積	（令和 7 年度）	1,900.1 ha	（令和 8 年度）	1,760.0 ha
			単収（ランク1）	（令和 7 年度）	352 kg/10a	（令和 8 年度）	320 kg/10a
			生産者数割合	（令和 7 年度）	83.3 %	（令和 8 年度）	70.0 %
16	大　豆	単収実績加算（大　豆）ランク2	作付面積	（令和 7 年度）	1,900.1 ha	（令和 8 年度）	1,760.0 ha
			単収（ランク2）	（令和 7 年度）	235 kg/10a	（令和 8 年度）	250 kg/10a
			生産者数割合	（令和 7 年度）	11.7 %	（令和 8 年度）	25.0 %
17	地力増進作物	圃場整備後の作物安定化助成（地力増進作物）	作付面積	（令和 7 年度）	351.4 ha	（令和 8 年度）	210.0 ha
18	飼料作物	飼料作物団地化加算	取組面積	（令和 7 年度）	205.9 ha	（令和 8 年度）	280.0 ha
			団地化率	（令和 7 年度）	40.0 %	（令和 8 年度）	65.0 %
19	飼料用米	耕畜連携（わら利用助成）	作付面積	（令和 7 年度）	379.7 ha	（令和 8 年度）	400.0 ha
	わら専用稲		取組面積	（令和 7 年度）	67.6 ha	（令和 8 年度）	230.0 ha
20	飼料作物	耕畜連携（資源循環助成）	作付面積	（令和 7 年度）	474.7 ha	（令和 8 年度）	505.0 ha
	WCS用稲		取組面積	（令和 7 年度）	264.6 ha	（令和 8 年度）	255.0 ha
21	自給飼料更新作物 別紙2-1で定める飼料作物優良品種の作付を行ったもの	自給飼料更新作物助成	作付面積	（令和 7 年度）	0.0 ha	（令和 8 年度）	80.0 ha
			単収	（令和 7 年度）	0 kg/10a	（令和 8 年度）	3,800 kg/10a
22	（露地栽培）白菜・南瓜・キャベツ・長葱・胡瓜・いちご・メロン・花卉	地域振興作物助成（露地推進）	作付面積	（令和 7 年度）	187.0 ha	（令和 8 年度）	233.0 ha
			取組面積	（令和 7 年度）	144.6 ha	（令和 8 年度）	180.0 ha

整理番号	対象作物	使途名	目標	前年度（実績）		目標値	
23	（ﾄﾝﾈﾙ栽培） 白菜・南瓜・キャベツ・長葱・胡瓜・いちご・メロン・花卉	地域振興作物助成	作付面積	（令和 7 年度）	187.0 ha	（令和 8 年度）	233.0 ha
		（ﾄﾝﾈﾙ推進）	取組面積	（令和 7 年度）	16.3 ha	（令和 8 年度）	20.0 ha
24	（ﾊｳｽ栽培） 白菜・南瓜・キャベツ・長葱・胡瓜・いちご・メロン・花卉	地域振興作物助成	作付面積	（令和 7 年度）	187.0 ha	（令和 8 年度）	233.0 ha
		（ﾊｳｽ推進）	取組面積	（令和 7 年度）	22.0 ha	（令和 8 年度）	33.0 ha
# 25	二毛作のみ 麦後白菜 麦後キャベツ	地域振興作物助成 （小麦後白菜・ｷｬﾍﾞﾂ：二毛作）	作付面積	（令和 7 年度）	28.2 ha	（令和 8 年度）	35.0 ha
# 26	（露地栽培） 別紙２－２で定める作物	基幹作物助成	作付面積	（令和 7 年度）	120.0 ha	（令和 8 年度）	118.0 ha
		（露地推進）	取組面積	（令和 7 年度）	94.5 ha	（令和 8 年度）	98.0 ha
# 27	（ﾄﾝﾈﾙ栽培） 別紙２－２で定める作物	基幹作物助成	作付面積	（令和 7 年度）	120.0 ha	（令和 8 年度）	118.0 ha
		（ﾄﾝﾈﾙ推進）	取組面積	（令和 7 年度）	6.7 ha	（令和 8 年度）	9.8 ha
# 28	（ﾊｳｽ栽培） 別紙２－２で定める作物	基幹作物助成	作付面積	（令和 7 年度）	120.0 ha	（令和 8 年度）	118.0 ha
		（ﾊｳｽ推進）	取組面積	（令和 7 年度）	7.4 ha	（令和 8 年度）	10.2 ha
# 29	そば なたね	地域重点作物推進加算 （そば・なたね）	作付面積	（令和 7 年度）	307.9 ha	（令和 8 年度）	230.0 ha
30	新市場開拓用米	新市場開拓用米	取組面積	（令和 7 年度）	0.0 ha	（令和 8 年度）	10.0 ha
# 31	新市場開拓用米	新市場開拓用米の複数年契約加算 （新規契約）	作付面積	（令和 7 年度）	347.4 ha	（令和 8 年度）	120.0 ha
			取組面積	（令和 7 年度）	35.7 ha	（令和 8 年度）	80.0 ha
32	地力増進作物 （ｲﾈ科・ﾌﾞﾗﾅ科・ｷｸ科・ﾏﾒ科）	地力増進作物の作付 （有機栽培や高収益作物等への転換に向けた土作り）	作付面積	（令和 7 年度）	406.0 ha	（令和 8 年度）	300.0 ha
			取組面積	（令和 7 年度）	379.0 ha	（令和 8 年度）	28.1 ha

必要に応じて、面積に加え、当該取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定して下さい。

※　目標期間は３年以内として下さい。

7　産地交付金の活用方法の概要

都道府県名：北海道

協議会名：JAいわみざわ地域農業再生協議会

整理番号	使途 ※1	作期等 ※2	単価 （円/10a）	対象作物 ※3	取組要件等 ※4
1	空知型輪作体系確立加算（前作：水稲）	1	1,500	秋小麦・春小麦・大豆・てん菜・子実用とうもろこし	水稲(前作)との輪作体系取組
2	春小麦の初冬播き栽培推進加算	1	1,400	春小麦	初冬播きの取組
3	大豆の狭畦栽培推進加算	1	1,400	大豆	畦幅を概ね30cm程度
4	畑作物輪作推進加算 （前作・当年作：対象作物による輪作）	1	1,300	麦・大豆・なたね・てん菜・子実用とうもろこし・小豆・玉葱・別紙2-2に定める作物	前作・当年作：対象作物による輪作取組 （「大豆⇔小豆」「なたね⇔アブラナ科野菜」「個票別紙2-2その他作物一覧表に掲げる作物内の同一分類科に属する作物によるもの」は除く）
5	重点基幹作物助成(玉葱)	1	33,500	玉葱	作付面積に応じて支援
6	地力増進作物推進助成 （玉葱後作緑肥：二毛作）	2	3,700	玉葱後作緑肥	作付面積に応じて支援。鋤込み実施。
7	地域重点作物推進助成 （子実用とうもろこし）	1	21,400	子実用とうもろこし	作付面積に応じて支援。適切な防除等。
8	地域重点作物推進助成(てん菜)	1	25,000	てん菜	作付面積に応じて支援。適切な防除等
9	地域重点作物推進助成(そば・なたね)	1・2	10,700	そば・なたね	作付面積に応じて支援。適切な防除等 基幹作小麦後にそば二毛作の取組への支援を含む。
10	輪作体系確立作物推進助成(小豆)	1	28,500	小豆	作付面積に応じて支援。適切な防除等
11	単収実績加算(秋小麦)ﾗﾝｸ1	1	1,400	秋小麦	単収500kg以上に対して支援
12	単収実績加算(秋小麦)ﾗﾝｸ2	1	1,100	秋小麦	単収400kg以上500kg未満に対して支援
13	単収実績加算(春小麦)ﾗﾝｸ1	1	1,400	春小麦	単収300kg以上に対して支援
14	単収実績加算(春小麦)ﾗﾝｸ2	1	1,100	春小麦	単収250kg以上300kg未満に対して支援
15	単収実績加算(大　豆)ﾗﾝｸ1	1	1,400	大豆	単収280kg以上に対して支援
16	単収実績加算(大　豆)ﾗﾝｸ2	1	1,100	大豆	単収180kg以上280kg未満に対して支援
17	圃場整備後の作物安定化助成(地力増進作物)	1	17,800	地力増進作物	圃場整備対象圃場への作付け・鋤き込みに対して支援
18	飼料作物団地化加算	1	3,700	飼料作物	飼料作物を作付し、団地化要件を満たす場合に支援
19	耕畜連携（わら利用助成）	3	9,300	飼料用米・わら専用稲	助成対象作物が、有畜農家に飼料わら利用された場合 別紙1の取組を1項目以上実施
20	耕畜連携（資源循環助成）	3	9,300	飼料作物・WCS用稲（別表）	助成対象作物を有畜農家に供給し、堆肥の還元を受ける取組に支援
21	自給飼料更新作物助成	1	10,700	自給飼料更新作物 飼料作物優良品種（別紙2-1）	作付面積に応じて支援。排水対策等。播種による更新時のみ。
22	地域振興作物助成(露地推進)	1	50,600	白菜・南瓜・ｷｬﾍﾞﾂ・長葱・胡瓜・いちご・ﾒﾛﾝ・花卉	作付面積に応じて支援。
23	地域振興作物助成(ﾄﾝﾈﾙ推進)	1	54,200	白菜・南瓜・ｷｬﾍﾞﾂ・長葱・胡瓜・いちご・ﾒﾛﾝ・花卉	作付面積に応じて支援。
24	地域振興作物助成(ハウス推進)	1	57,800	白菜・南瓜・ｷｬﾍﾞﾂ・長葱・胡瓜・いちご・ﾒﾛﾝ・花卉	作付面積に応じて支援。
25	地域振興作物助成 （小麦後作白菜・ｷｬﾍﾞﾂ：二毛作）	2	14,400	麦後白菜・麦後キャベツ	作付面積に応じて支援
26	基幹作物助成(露地推進)	1	32,800	別紙2-2のとおり	作付面積に応じて支援。
27	基幹作物助成(トンネル推進)	1	36,500	別紙2-2のとおり	作付面積に応じて支援。
28	基幹作物助成(ハウス推進)	1	39,900	別紙2-2のとおり	作付面積に応じて支援。
29	地域重点作物推進加算(そば・なたね)	1	20,000	そば・なたね	作付面積に応じて支援。
30	新市場開拓用米	1	20,000	新市場開拓用米	作付面積に応じて支援。
31	新市場開拓用米の複数年契約加算（新規契約）	1	10,000	新市場開拓用米	助成対象作物の複数年契約(1年目)に応じて支援
32	地力増進作物の作付 （有機栽培や高収益作物等への転換に向けた土作り）	1	8,800	地力増進作物	土作りを行う地力増進作物の作付面積に応じて支援。

※1　二毛作及び耕畜連携を対象とする使途は、他の設定と分けて記入し、二毛作の場合は使途の名称に「○○○（二毛作）」、耕畜連携の場合は使途の名称に「○○○（耕畜連携）」と記入してください。
ただし、二毛作及び耕畜連携の支援の範囲は任意に設定することができるものとします。
なお、耕畜連携で二毛作も対象とする場合は、他の設定と分けて記入し、使途の名称に「○○○（耕畜連携・二毛作）」と記入してください。

※2　「作期等」は、基幹作を対象とする使途は「1」、二毛作を対象とする使途は「2」、耕畜連携で基幹作を対象とする使途は「3」、耕畜連携で二毛作を対象とする使途は「4」と記入してください。

※3　産地交付金の活用方法の明細（個票）の対象作物を記載して下さい。対象作物が複数ある場合には別紙を付すことも可能です。

※4　産地交付金の活用方法の明細（個票）の具体的要件のうち取組要件等を記載してください。取組要件が複数ある場合には、代表的な取組のみの記載でも構いません。

（別表）耕畜連携（資源循環助成）対象作物

青刈りとうもろこし、青刈りソルガム、テオシント、スーダングラス、青刈り麦（らい麦又はえん麦を含む。またサイレージ化したものを含む。）、青刈り大豆、子実用えん麦、青刈り稲、

WCS用稲、わら専用稲、青刈りひえ、しこくびえ、オーチャードグラス、チモシー、ペレニアルライグラス、ハイブリットライグラス、スムーズブロムグラス、トールフェスク、メドーフェスク、フェストロリウム、ケンタッキーブルーグラス、リードカナリーグラス、バヒアグラス、ギニアグラス、カラードギニアグラス、アルファルファ、オオクサキビ、アカクローバ、シロクローバ、アルサイククローバ、ガレガ、ローズグラス、パラグラス、パンゴラグラス、ネピアグラス、セタリア、飼料用かぶ、飼料用ビート、飼料用しば

別紙２－１

飼料作物優良品種一覧表

	区分		
	種類	草種	品種
1	牧草類（イネ科牧草）	チモシー	アッケシ
2			オーロラ
3			キリタップ
4			クンプウ
5			シリウス
6			ノサップ
7			ホクエイ
8			ホライズン
9			ホクシュウ
10			なつさかり
11			なつちから
12			ヘリオス
13			アルテミス
14		オーチャードグラス	バッカス
15			ハルジマン
16			はるねみどり
17			ワセミドリ
18			トヨミドリ
19		ペレニアルライグラス	フレンド
20			ポコロ
21			チニタ
22		メドウフェスク	ハルサカエ
23			まきばさかえ
24		ケンタッキーブルーグラス	トロイ
25			ラトー
26		トールフェスク	ホクリョウ

	区分		
	種類	草種	品種
	牧草類（マメ科牧草）	アカクローバ	アレス
			ナツユウ
			マキミドリ
			リョクユウ
		シロクローバ	ソーニャ
			タホラ
			フィア
			マキバシロ
			リースリング
			リベンデル
			ルナメイ
		アルファルファ	ケレス
			ハルワカバ
			ヒサワカバ
			マキワカバ

別紙２－２

基幹作物推進加算で対象とするその他作物の一覧表

	区分			
1	ばれいしょ（でん粉原料用を除く）			⑰
2	その他作物	野菜	あさつき（千本ねぎ）	⑳
3			明日葉	⑭
4			味美菜	※ ②
5			アスパラガス（ｸﾞﾘｰﾝ･ﾎﾜｲﾄ･紫）	⑧
6			いんげん	㉓
7			うど	④
8			うり	⑤
9			エゴマ	⑪
10			えだまめ	㉓
11			オクラ	①
12			カイラン	※ ②
13			かいわれだいこん	※ ②
14			かぶ	※ ②
15			カラシナ	※ ②
16			カリフラワー	※ ②
17			カンロ（アジウリ、まくわうり）	⑤
18			きのこ類	―
19			ぎょうじゃにんにく	⑳
20			クレソン	※ ②
21			くわい	⑥
22			ケール	※ ②
23			ゴーヤ（にがうり）	⑤
24			こごみ	⑨
25			小ねぎ	⑳
26			ごぼう（山ごぼうを含む）	⑦
27			こまつな	※ ②
28			こもちかんらん（芽キャベツ）	※ ②
29			こんにゃく	⑩
30			ささげ	㉓
31			さつまいも（かんしょ）	㉒
32			さといも	⑩
33			サニーレタス	⑦
34			さやいんげん	㉓
35			さやえんどう	㉓
36			サラダ菜	⑦
37			サンチュ	⑦
38			ししとう	⑰
39			しそ	⑪
40			しゅんぎく（菊菜）	⑦
41			じゅんさい	⑱
42			しょうが	⑫
43			食用キク	⑦
44			食用ハーブ	
45			食用花（エディブルフラワー）	
46			食用ゆり(ゆりね)	㉕
47			シロウリ	⑤
48			しろ菜	※ ②
49			スイートコーン（八列とうもろこしを含む）	③
50			すいか（マダーボールを含む）	⑤
51			ズッキーニ	⑤
52			スナップエンドウ	㉓
53			せり	⑭
54			セルリー	⑭
55			ぜんまい	⑮

	区分			
56			そらまめ	㉓
57			ソルトリーフ	⑲
58			タアサイ	※ ②
59			だいこん	※ ②
60			大根菜（すぐりな）	※ ②
61			たいな	※ ②
62			チコリ	⑦
63			ちんげんさい	※ ②
64			テンダーポール（花ニラ）	⑳
65			とうがらし（なんばん）	⑰
66			冬瓜	⑤
67			トマト	⑰
68			なす	⑰
69			なた豆	㉓
70			菜花	※ ②
71			にら	⑳
72			にんじん	⑭
73			にんにく	⑳
74			にんにくの芽	⑳
75			野沢菜	※ ②
76			パセリ	⑭
77			花みょうが	⑫
78			パプリカ	⑰
79			はまぼうふう	⑭
80			ビーツ	㉑
81			ピーマン	⑰
82			広島菜	※ ②
83			ふき	⑦
84			ブロッコリー	※ ②
85			ベビーリーフ	⑦
86			ほうれんそう	㉑
87			実えんどう(ｸﾞﾘｰﾝﾋﾟｰｽ)	㉓
88			みずな	※ ②
89			みつば	⑭
90			ミニトマト	⑰
91			みぶ菜	※ ②
92			みょうが	⑫
93			モロヘイヤ	①
94			ヤーコン	⑦
95			やまのいも（長芋・大和芋）	㉔
96			落花生	㉓
97			らっきょう	⑳
98			ラディッシュ	※ ②
99			リーキ(ポワロ)	⑳
100			リーフレタス	⑦
101			ルッコラ	※ ②
102			ルバーブ	⑯
103			レタス	⑦
104			レッドキャベツ	※ ②
105			れんこん	⑬
106			わさび（水・畑・山わさび）	※ ②
107			薬草（トウキ）	⑭

①	アオイ科
②	アブラナ科
③	イネ科
④	ウコギ科
⑤	ウリ科
⑥	オモダカ科
⑦	キク科
⑧	キジカクシ科
⑨	コウヤワラビ科
⑩	サトイモ科
⑪	シソ科
⑫	ショウガ科
⑬	スイレン科
⑭	セリ科
⑮	ゼンマイ科
⑯	タデ科
⑰	ナス科
⑱	ハゴロモモ科
⑲	ハマミズナ科
⑳	ヒガンバナ科
㉑	ヒユ科
㉒	ヒルガオ科
㉓	マメ科
㉔	ヤマノイモ科
㉕	ユリ科

区　　分

区　　分

※はアブラナ科野菜